

## 開催報告

# 令和5年度 JA生活文化活動担当者 パワーアップ研修会

JAの生活文化活動担当者を対象とした研修会を東西2会場で開催しました。プログラムは、女性組織との関係強化策を学ぶとともに、参加者が日頃行っている文化活動を互いに情報共有できる構成とし、東日本地区は6月28～29日に東京都で、西日本地区は6月1日～2日に福岡県で実施しました。2会場での開催は4年ぶりでしたが、東西合計で54JA・20JA中央会の計117人が参加し、盛会裏に終了いたしました。研修会プログラムの中から、課題提起、基調報告、2JAからの実践報告、活用講習、JA共済連による報告、パネルディスカッションの内容についてご報告します。



主催／一般社団法人 家の光協会  
後援／一般社団法人 全国農業協同組合中央会  
全国共済農業協同組合連合会

課題  
提起

## 担当者の提案からはじまる、 地域と組織を巻き込む支店協同活動

今中秀典 家の光専門講師



広域合併によるJA数の減少や組合員の高齢化など、JAを取り巻く背景は厳しい現状が続いています。今後、ますます創意工夫と行動力で組合員、役員、地域住民をJAに結集させることが、重要かつ不可欠となります。そこで必要となるのが「支店協同活動」です。時代の変遷で組合員の職業も多様化し、仲間づくりの場が減少していくなかで、支店が地域の拠点となり、組合員、地域住民に対して、いかに取り組みを提案していくかがポイントです。

今回の研修を通じ、規模や環境等がよく似たJAを見つけ、成功事例をうまく活用することは、今後の活動に大変役立ちます。JA教育文化活動担当者としての心構えとそれぞれの地域にあったつながり強化策を考えていきましょう。

基調  
報告

## 教育文化活動促進と 『家の光』普及活用運動について

熊田陽介 家の光協会 普及文化本部 本部長



JAの支店・職員・組合員組織が減ってきている今、支店や支店長の役割はこれからますます重要になっていきます。今回の研修会は、支店に人が集まるイベント企画を充実させようという目的も込めて開催する運びになりました。協同活動の原点である、「人が集い、活動し、学習する」。この協同活動の価値観をこれからの時代にどう考えていくのか、支店がどのような仕掛けをしていくのか、ということが求められています。

『家の光』を地域貢献活動、福祉活動、生活文化活動などに活かすことは、JAファンづくりはもちろん、共済や信用といった各事業にも影響を及ぼしていきます。これからも協同の理念があまねく行き及ぶよう取り組みを進めていきましょう。

## 組合員～次世代との関係づくりについて

藤原健太郎 企画部 暮らしの活動課 課長



JAみえなかは、令和3年4月に、三重県内の3JAが合併し、発足しました。私たちは、地域の拠り所となり親しまれるJAを目指して、組合員・地域との関係強化を目的に、「1支店等1協同活動」に取り組んでいます。具体的には、①組合員・地域住民・役職員の三者が参画して行う「地域ふれあい活動」、②役職員が主体となり全部署が積極的に取り組む「CSR活動」、③身近な情報を組合員・地域住民に伝え親しんでもらう「支店・事業所だより」の3つのカテゴリに分類されます。積極的に活動に取り組んでもらうためには、トップ層の理解のほか、取り組みについての評価も必要です。そこで年度ごとに、積極的な活動を行った部署には表彰の実施や報奨金の支給などで職員のモチベーションを高めています。

### ■ より地域に根ざした取り組みを行うために

組合員や地域住民とともに考え、話し合い、元気な地域・支店づくりに取り組むことを目的とした支店運営委員会を設置しています。構成メンバーには女性を2名以上、准組合員を2名以上入れることや、年2回以上実施することが必須となっています。支店運営委員会を設置することで、組合員・地域住民・女性組織等とより強い関係を構築することや、委員のメンバーと一緒に考えることで、より地域に合った取り組みを行うことが可能となっています。また、女性組織が年々減少しているなかで、次世代にJAの活動を伝え、PRするためにSNSを活用した発信なども行っています。

こうした組合員や地域住民、さらには若い世代との接点づくりに向けた活動は、将来にわたる経営、事業継続のために、大変重要な活動であると感じています。そのうえで、事務局は全部署・全職員が積極的に活動に取り組めるよう、環境を整備していくことを大切にしています。

## 生活指導員のその先に…

本田真彩 大津中央支所 生活課



私が担当している J A 菊池女性部大津支部には、20の地区のグループと職員グループ、個人会員、フレッシュミズのほか、7つのサークル活動があります。

平成29年度には、「家の光くらぶ」を立ち上げ、担当者として家活に取り組んでいきました。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行で活動が停止し、「『家の光』を勧めるために何かできないか?」と模索していたところ、他支部の職員が『家の光』の読みどころを作っていることを知り、自分でも実践してみました。「読みどころを見ていっぱい読むようになったよ!」と言ってもらえたときには大変うれしく思いました。

また、『家の光』を学びの教材として、各会議で読書会を実施するようにし、会議をなごませるなどの良い雰囲気づくりに役立てています。

### ■ 部員とつながれることが生活指導員の財産

私が忘れてはいけないと思っていることは、女性部は私の組織でもグループでもないということです。部員のみなさんの組織であり、すべてをお膳立てせず、自分一人では難しいことは一緒に考えます。私も1女性部員であることを忘れず、無理をして活動する必要はないと思っています。

担当になって最初のころは、気負い過ぎて空回りすることもありましたが、以前と同じことをそっくりそのままではなく、自分の色を出して、自分のスタイルで活動していけばいいと思うようになり、気持ちが楽になりました。今はこのように部員さんと繋がれることが生活指導員の財産だと感じています。

今後は大津支部のLINEアカウントを作り女性部活動をはじめ、J A 菊池の情報をタイムリーに発信しながら仲間を増やす取り組みをしていきたいです。

## 共済事業と連携したライフプランセミナー

佐久間幸子 家の光専門講師



現在、核家族化が進み、自分の生活は自分で守らなければならない時代になっています。これからの人生で、いつ、どんなライフイベントがあるのか、どんなことをしたいのかを考えて、必要な費用を予測することは、特に若い世代にこそ求められています。

そこで今回提案するのが共済事業と連携したライフプランセミナーです。フレッシュミズ世代との接点づくりにつながることはもちろん、共済事業への理解や、JAへの満足度・信頼感が高まるといった効果も期待できます。また組合員や地域住民との関係性が希薄になり、支店に人が集まらないという課題に対しても、ライフプランセミナーによって、JAの存在を感じてもらったり、若い人たちのニーズを聞くきっかけにもなったりすると思います。ぜひ若い世代にJAとつながってもらえるツールの1つとして、ライフプランセミナーの開催を検討してみてください。

### 報告

## ニューパートナー（共済未加入者）に対する「はじまる活動」

坪井宏太 JA共済連 全国本部 普及部 普及企画グループ 課長



わたしたちJA共済は、常に組合員・利用者の信頼と期待に応え、「安心」と「満足」を提供するべく活動をしています。現在、保有契約者数は減少傾向にあり、なかなか若い世代に加入してもらえていない状況です。だからこそニューパートナー（共済未加入者）への提案は必須であり、ライフプランを叶えるために

JA共済として協力できることが多くあります。令和4年には、その一環として家の光協会とともにフレッシュミズ層を対象としたライフプランセミナーを3つのJAで開催しました。今後もこうした生活文化事業と連携した取り組みを継続して展開してまいります。

## パネルディスカッション

### ●コーディネーター

**今中 秀典** 家の光専門講師

### ●パネリスト

**佐久間 幸子** 家の光専門講師

**藤原 健太郎** 三重県JAみえなか 企画部 暮らしの活動課 課長

**本田 真彩** 熊本県JA菊池 大津中央支所 生活課

**熊田 陽介** 家の光協会 普及文化本部 本部長



**今中**：まずは藤原さんと本田さんの実践報告について、佐久間さん、熊田さんにお聞きしたいと思います。

**佐久間**：本田さんがおっしゃっていた「部員とつながることが生活指導員の財産なんだ」という言葉が非常に印象に残っております。今は、人と人との交わりやJA職員と女性組織メンバーとの関係がだんだん希薄になってきているのではと思います。そうした中で、組合員さんとJA職員が顔のつながる関係になっていることは、まさしく協同組合の原点だと思います。

**熊田**：お二方に共通している点が2つあります。それは職員の巻き込み方です。藤原さんで言いますと、全職員で活動を行っていること。本田さんは、組合員や利用者とJAとのつながりを深めるために、職場づくり「小集団活動」を金融共済職員も巻き込んで取り組まれたところでした。

**今中**：藤原さんにお聞きします。支店運営委員会の構成メンバーを女性2名以上、准組合員2名以上としている理由と、その効果について教えてくださいませんか。

**藤原**：まず、支店運営委員会の構成についてですが、女性ならではの運営感覚や取り組みを生かしていかなければならないという中央会からの話を参考にして、設定しました。効果としては、様々な人の意見を反映したうえで、地域を元気に

する活動を行えているというところが良い影響かと感じております。

**今中：**本日参加したみなさんが興味を持っておられるのが、SNSです。その中で、まず藤原さんはどういった工夫をして発信されているのか教えてください。

**藤原：**SNSについては、JAみえなかはLINEやInstagramなどを運営していきまして、基本的に発信するのは、広報の部署が行っています。内容については、タイムラインという機能に頻繁に女性組織の活動やその日あったことを掲載し、それを広報の担当者が外部向けの文章に修正し発信するという流れです。また、くらしの活動課でもSNS用のタブレットを本店で用意してもらっているので、そこから発信もしています。

**今中：**次に本田さんですが、今後LINEに取り組んでいきたいとのことでしたが、こうなっていけばいいなという思いがありましたら、説明していただければと思います。

**本田：**自分たちの活動を知ってもらうという点では、LINEがタイムリーなうえ無料で見られますし、自分たちもいちばん始めやすいのではないかと考えています。

**今中：**本日、佐久間先生とJA共済連さんからお話がありましたが、JAとしてどうやってLA（ライフアドバイザー）を取り込んで活動に役立てていけばいいのか、みなさんのご意見をお聞かせください。

**藤原：**女性組織の会員自体は減少傾向にあり、このままだとおそらく女性組織自体がなくなってしまうんじゃないかという声もあります。そのなかで、次世代の方たちにすぐに女性組織に加入してもらおうのではなく、まずはJAや地域の食と農に興味を持ってもらえるような場を作っていかなければならないと考えております。そうした活動の中で、金融関係や共済関係の職員にも参加していただければと考えています。

**本田：**現在、グループ長会議にLAさんをお呼びして、共済の内容についての説明をお願いしております。女性職員や女性部員を対象にピンクリボン運動の一環として、乳がんの早期発見をしようといった活動を開催したこともありました。これからも、LAさんと一緒に取り組んでいきたいと考えています。

**熊田：**先ほど、教育文化活動に取り組むと、他の事業への効果もあるとお話ししました。信用事業に大きな効果があったのは高齢者を対象にした教育文化活動で、共済事業につながったのが食農教育であります。各事業への影響という点で、教育文化活動はやはり重要であると感じています。

**佐久間：**生活文化活動担当者もLAさんも共に、若い人たちにアプローチをしたいという思いがあり、ターゲットは同じはずですが、また、生活文化活動担当部署と共済部署の連携が現実的に進むためには部門間連携の仕組みを作ることと共済側からの声かけが欠かせないと思います。

**今中：**この2日間を通じて、みなさんから何か質問はありませんか。

**熊田：**本田さんの報告で、女性部の支部が消滅したところは個人会員制度を導入しているという話がありましたが、会費など運営上の参考になるものがあれば教えてください。

**本田：**個人会員に関しましては、地区のグループに入っている方と一緒に、会費は1000円となっています。また個人会員だからといって女性部役員の話が回ってこないというわけではなく、適任者がいれば個人会員の方でも声をかけるということにしております。

**今中：**最後に感想を一言ずつお願いします。

**藤原：**当JAでは、ほとんどの職員に『家の光』を購読してもらっている状況ですが、活用をもっとすすめるべきかと考えています。誌面を見ると、組合員さんとの対話において必要な知識が詰まっていると感じます。今回の情報交換分科会でも『家の光』を購読してもらうための取り組み事例を教えてください、大変参考になりました。

**本田：**みなさんとお話する中で、まだまだ自分ができていないことや、できそうなことが見えてきました。持ち帰って、自分がよりステップアップできるように頑張りたいと思います。

**佐久間：**今回の研修では、グループワークを通じて悩みを共有する機会があったこと、優れた事例を聞いたこと、懇親会でお互いの交流を深められたことが大変素晴らしい経験になったと思います。

---

## ま と め

今回の研修会のいちばんの狙いは、「ともに学びプランを提案できる担当者をめざす」ことです。そのためには、イベントやセミナーなど、とにかく支店で何かをする必要があります。ただし、背伸びはせず、地域に合ったことを行うことが大切です。支店協同活動を行うことで、地域住民が集まる場所づくりや組合員と関わる機会が増えていくでしょう。

教育文化活動を行う担当者は選ばれた存在です。教育者であり、文化者であり活動者であるみなさんの活動は、経験として蓄積され、次の時代にも受け継がれていくものです。

これからも周りの人を幸せにするような活動を頑張っておこなっていきましょう。

